

Ⅷ 平成 21 年度愛知県図書館サービス計画

この計画は、愛知県図書館の基本理念に基づき、21 年度中に行う図書館サービスを示し、達成すべき数値目標を明らかにするものです。

1 20 年度の図書館サービスの評価と改善すべき課題

20 年度のサービス計画では(1) 県民の需要、市町村立図書館の要望に応えられる資料収集、(2) 図書館を知っていただくための様々な事業の展開 の 2 点を基本に、重点をおいて取り組むサービスとして、ア レファレンス (調査相談)、イ 市町村立図書館への支援、ウ 図書館を知っていただくための活動をあげました。その上で、(ア)レファレンス件数、(イ)市町村立図書館への貸出冊数、(ウ)催しの参加者数、(エ)「本と雑誌の量や種類」の満足度 の 4 つの数値目標を掲げました。

アのレファレンスについては、平成 17 年度以来、年々件数を伸ばしてきていましたが、20 年度は前年並みとなり、数値目標を達成することはできませんでした。今後は、レファレンスサービスをより広く考え、利用者の調べ物や課題解決への支援の方法について検討します。

イの市町村立図書館への支援では、協力貸出冊数の数値目標を達成することができました。数値目標の設定を始めた年の前年 (17 年度) からみると、4 年間で 27% の増加となっています。しかし、誇れる数字にはまだ遠い状況です。今後はより積極的に県図書館の資料とサービスをアピールしていく必要があると考えます。

ウの図書館を知っていただく事業では、ノーベル賞の展示・講演のようにタイムリーな企画、大学、外部団体、県の機関等との連携事業などによる展示や講演・講座を開催し、多くの方に来館していただくことができ、数値目標も達成しました。

数値目標(エ)の「本と雑誌の量や種類」の満足度については、目標には達しませんでした。この目標を設定した年の前年の満足度に比べると 3 年で大きく上昇しています。これは、この間の資料収集について一定度の評価をいただいたものと考えています。

20 年度は、入館者数、貸出冊数などの指標も順調に伸び、数値で測れる範囲では図書館サービスは向上しているといえます。しかし、名古屋市以外の県民の方々の多くには県図書館のサービスは届いておらず、存在が知られていない状況があります。市町村立図書館との連携などによって、県図書館のサービスを全ての県民に届けることが今後の大きな課題です。

2 21 年度サービスの基本的な考え方

百年に一度ともいわれる不況が世界をおおっています。厚生労働省の調査によれば、今年の 4 月までに 12 万人以上の非正規労働者が職を失うとされ、とりわけ愛知県は全国一位の 2 万人が職を失うとされています。公共図書館は、こうした厳しい状況の中でこそ、地域の知の公共的基盤 (インフラストラクチャー)、文化的な生活を送るための安全網 (セーフティーネット) として、重要な役割を果たすことが求められます。

また、法人税収の激減により、多くの自治体が厳しい財政運営を余儀なくされ、市町村立図書館の中には資料費が大幅に削減されるところも出てきています。このため、県全体の知的基盤を支える県図書館の役割がますます重要なものとなってくるといえましょう。

このような状況を踏まえ、21 年度の愛知県図書館は、

- (1) 困難な経済状況の中で生活する県民が必要とする資料・情報を的確に提供する。
- (2) 全ての県民が図書館サービスを享受できるよう努める。

の 2 点をサービスの基本目標とします。

3 特に重点を置くサービス

(1) 県民の生活や地域の経済活動に役立つ資料・情報を提供します。

県図書館ではこれまでもビジネス情報コーナーにおいて事業経営や職業・資格に関する資料の提供に努めてきましたが、厳しい不況下、とりわけ困難な状況にある、失職者、非正規労働者のため就労、資格取得、キャリア形成のために必要な資料・情報の提供に力を入れます。また、地域の経済活動を応援するため、科学技術関係資料、経営や様々な産業についての実務資料、地域の産業や市場に関する資料など経済活動に役立つ資料・情報の提供にも一層努めます。多文化サービスコーナーでは、日本語を学ぶために必要な資料な

どを中心に、在住外国人の方々の就労や生活に役立つ資料・情報の提供に努めます。

(2) 読書で県民生活が潤いあるものになるよう努めます。

厳しい経済状況の中で、ともすれば生活の潤いや文化的な楽しみがしろにされがちです。しかし、こうしたときこそ文化や芸術は人々の生きる力を支えるものとなるはずで、図書館は、読書を通して皆様の生活が潤いあるものになるよう努めます。とりわけ高齢者、子ども、障害者など経済的に弱い立場の人々に配慮し、市町村立図書館などとも協力しながら、本に親しめる環境を作っていきます。

(3) 市町村立図書館と連携し、県図書館の資料を全ての県民に届けます。

所蔵資料を市町村立図書館を通して貸出す協力貸出に力を入れてきましたが、いまだ県図書館の資料を広く県民の皆様に利用していただくには至っていません。そこで、県図書館がどんな資料を持っているのかをお近くの図書館で知っていただくため、県図書館の資料による企画展示セット、あるいは特定主題の図書セットを市町村立図書館にお持ちします。市町村立図書館の力を借りて、県図書館の所蔵資料を知っていただき、使っていただく機会をつくらうというものです。

県民の要求が市町村立図書館をとおして県図書館に届くのを待つだけではなく、市町村立図書館とともに、積極的に県図書館のできることを皆様に提示していきたいと考えています。

(4) 誰でもが資料探しや調べ物がスムーズにできるような環境を整備します。

これまで3年間レファレンスサービスを特に重点をおいて取り組むサービスとしてきました。レファレンスサービスを愛知県図書館の重要な仕事とする考え方は変わりませんが、21年度は自分で調べる方への支援に力をいれます。

アンケート調査によればレファレンスを利用しない人の半数以上の方が、調べ物は職員に頼らず「自分で探す」と答えています。この最も厚い層に対しては、少しの手助けで直接的なレファレンスサービスをする以上に実質的な効果をあげることが出来るのではないかと考えました。図書館での調べ方の案内を作成したり、利用講座を行ったり、あるいは資料配置をわかりやすく案内するサインを掲示するなど、利用者の調べる環境の整備を重点的に行っていきます。

(5) 図書館を知っていただくための事業を様々な人々と連携して行います。

展示、講演等事業の目的の一つとして、県図書館にこれまでいらっしゃることのなかった方々に図書館に足を運んでいただき、図書館の利用価値を知っていただくことがあります。展示、講演等のなかにはマスコミで取り上げられ、多くの方においでいただけるものもありますが、図書館以外の様々な人々、組織、機関と連携して行う事業は、それ以上に従来の図書館利用層とは異なる層の人々においでいただく機会となります。21年度は連携事業を一層増やし、図書館を多くの方々を知っていただくこうと考えています。

4 数値目標

図書館運営上の主要な指標及び今年度の重点サービスのうち数値化が可能なものを数値目標としてとりあげました。また、投入（インプット）、産出（アウトプット）、成果（アウトカム）の各項目にわたるよう指標を設定しました。ただし、同じ目的の中の投入と産出の指標は連動する関係にはなっていません。

目的	事項	平成20年度 実績	平成21年度 目標	前年比
資料・情報の提供	資料の個人利用点数（貸出点数＋閉架資料の利用点数）	61万1千点	63万点	103%
市町村図書館支援	市町村立図書館への図書セット提供件数	0件	5件	—
	協力貸出冊数＋県を経由した借受冊数	4万5千冊	4万7千冊	105%
調べ物の支援	調べ方案内の作成数	0点	10点	—
	レファレンス件数	3万6千件	3万7千件	103%
図書館を知っていただく活動	共催・協力等による展覧会・講演会の回数	8回	10回	125%
	入館者数	74万5千人	76万7千人	103%
全般	来館者アンケートにおける全般的な満足度	3.17ポイント	3.20ポイント	—